

「3つのポリシー」に関するアセスメントポリシー（2019 度版）

教学マネジメント委員会

1. 目的

本ポリシーは、本学の「3つのポリシー」を実質化するための方策を定めるものである。

その方策は、

- ①「3つのポリシー」を検証する視点
- ②検証の根拠となる各種データを組織的に収集・蓄積・分析する具体的手順
- ③検証に基づいて重点取り組み課題を抽出し、次年度の教育改善に生かすことによって PDCA サイクルを回すための年間スケジュールで構成する。

2. 「3つのポリシー」の実質化が必要な理由

(1) 「3つのポリシー」の定義

「3つのポリシー」は、大学・短期大学部及び各学部・学科の教育目標を実現するための設計図である。

「3つのポリシー」は、ディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）、アドミッションポリシー（AP）で構成され、大学及び短期大学は、これらを策定し、公表することが義務付けられている。

用語の整理

建学の精神：大学・短期大学が使命（人材の育成）を達成するための理念・行動指針

教育目的：大学・短期大学が育成する人材像を記載したもの（学則第1条）

教育目標：目的とする人材育成を達成するための到達目標

DP：教育目標で示した到達目標を、卒業時に身に付けるべき具体的な能力（知識、技術、態度など）として言語化し、明文化したもの

CP：DPで示した能力を学生が身に付ける行程（ロードマップ）を明文化したもので、カリキュラム作成の基本方針となる。

各授業科目で身に付ける能力とDPの関係（体系性、順序性）をマトリックスで表示したカリキュラムマップとナンバリングを含む。

AP：大学・短期大学部及び各学部・学科が実施する教育を受ける前提として、高等学校で身に付けておくことが望ましい能力を「学力の3要素」に沿って記載したもの

(2) 「3つのポリシー」を策定、公表する意義

「3つの方針」を策定し、公表する意義は以下のとおりである。

「在学生」に対しては、卒業時の明確なゴールと、それを達成するためのロードマップを示すものである。

「高校生」に対しては、本学が提供する教育内容と魅力を示すものである。

「社会」に対しては、本学の役割と機能を示すものである。

(3) 「3つのポリシー」の実質化とアセスメントポリシーの関係

2018年度から始まった大学の認証評価（第3クール）では「内部質保証」が最も重要なキーワードになった。これにより、「3つのポリシー」を策定し、公表したというように、「〇〇について、△△した」という成果を列挙するだけでは評価されなくなった。どんなに優れた取り組み（Plan）であり、立派な成果（Do）を挙げていても、PlanとDoだけでは、PDCAサイクルは完結しない。「〇〇の取り組みをどのように立案し、△△したことの評価指標をどのように決めたのか」、「△△の実施体制、進行管理はどうだったのか」、「△△したことのデータをどのように収集し、その結果を、どのように評価したのか（Check）」、「評価結果に基づく改善策を次年度の年度計画にどのように反映したのか（Action）」、「これらの取り組みをどのように全教職員に周知したか」などの質問に回答する実績の積み重ねが求められている。つまり、単発の打ち上げ花火的な大きな成果が求められているのではなく、PDCAサイクルによる継続的な改善の取り組みを組織的に実施することが定着していることが評価されるのであって、そのような体制を整備し、組織的に運用することが「3つのポリシー」を実質化することの他ならない。アセスメントポリシーは、「3つのポリシー」に関する大学の取り組み状況を検証し、PDCAサイクル（特に、CheckとAction）を回すための具体的手順を提示するものである。

3. DP・CPの検証

(1) DP・CPを検証する視点

<ul style="list-style-type: none"> ・ DP・CP は、各大学、学部・学科等の教育目標を踏まえて策定・公表・周知しているか？ ・ DP・CP に基づく教学の管理・運営体制は適切か？ ・ DP・CP に基づいた教育を実施しているか？ ・ 主観的及び客観的学習成果の到達度を適切に評価できているか？ ・ 在学生の満足度を適切に評価できているか？
--

(2) DP・CP検証のためのチェックリスト

検証の視点	チェックリスト	根拠データ
DP、CPの策定・公表・周知	<input type="checkbox"/> DP・CPを策定している。 <input type="checkbox"/> DPは、各学部・学科の教育目標を具体的能力として適切に表現している。 <input type="checkbox"/> CPは、DPと整合性がとれている。 <input type="checkbox"/> DP・CPを公表している。 <input type="checkbox"/> DP・CPを在学生に周知している。	DP、CP 学則第1条（教育目標） ナンバリング（DPとCPの整合性） ホームページ、大学案内パンフ、キャンパスガイド 学生調査
管理・運営体制	<input type="checkbox"/> 教学マネジメント委員会に学外者及び学生が参加している。 <input type="checkbox"/> 教学マネジメント委員会を年2回開催している。 <input type="checkbox"/> 履修単位上限を設定している。（キャップ制） <input type="checkbox"/> GPAを履修指導に活用している。	教学マネジメント委員会規程、 議事録 各種規程、キャンパスガイド

教育の実施	<input type="checkbox"/> 全開講科目のシラバスを作成し、公表している。 <input type="checkbox"/> シラバスの内容をチェックし、改善のための指導を行っている。 <input type="checkbox"/> 教員は、シラバスに基づいて授業を実施している。 <input type="checkbox"/> 教員は、適切な授業改善の手立てを実施している。	シラバス シラバスチェック体制と指導実績（記録） 授業評価（シラバス、授業内容・方法、教員に対する評価に関する項目） 全体の平均値と分布及び担当授業科目ごとの結果を全教員へフィードバック
主観的学習成果 （到達度、満足度）	<input type="checkbox"/> 学生は、主体的に学習している。 <input type="checkbox"/> 学生は、十分な学習時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 学生は、自己の成長を実感している。 <input type="checkbox"/> 学生は、自己の学習成果に満足している。	授業評価（出席率、受講態度、予習復習時間、学習到達度、満足度に関する項目） 学生生活実態調査 学習行動調査 満足度調査 } 次年度、整理統合し質問項目を厳選 *学科別学修到達度評価の方法は次年度検討
客観的学修成果到達度	<input type="checkbox"/> 学生は、DP で想定している能力を身に付けている。 <input type="checkbox"/> 教員は、適切な成績評価を実施している。	カリキュラムマップ（ナンバリング）に基づく DP 別 GPA の平均値と分布 学科別の学習到達度評価ツールの作成 国家試験合格率 成績評価（全体の秀、優、良、可、不可の分布） 学科別・学年別の留年率

4. AP の検証

(1) AP を検証する視点

- ・ AP は、教育目標、DP、CP に基づき、受け入れる学生に求める学習成果（学力の 3 要素）を明示しているか？
- ・ 選抜方法は、高等学校の学習成果（学力の 3 要素）を適切に評価しているか？
- ・ すべての入学予定者に、入学前教育を実施しているか？
- ・ 選抜方法と入学後の学習行動や学習成果（学習到達度）との関係を検証しているか？

(2) AP 検証のためのチェックリスト

検証の視点	チェックリスト	根拠データ
AP の策定・公表	<input type="checkbox"/> AP は、DP に記載している能力を身に付ける前提として求める <u>学習成果を明示</u> している。 <input type="checkbox"/> 学習成果は、「 <u>学力の 3 要素</u> 」に対応している。 <input type="checkbox"/> AP を、 <u>公表</u> している。	AP、DP、CP

選抜方法	<input type="checkbox"/> 多様な背景を持つ学生の受け入れる入試区分を設けている。 <input type="checkbox"/> 各入試区分の選抜方法は、「学力の3要素」を多面的に評価する選考方法を採用している。	募集要項 入試区分別 志願者数、合格者数、入学者数
採点基準	<input type="checkbox"/> 採点基準（ルーブリックなど）を作成している。 <input type="checkbox"/> 採点基準は、各選考方法に対応する学力の到達度（学習成果）を評価するものになっている。 <input type="checkbox"/> 採点者による極端なバラツキや偏りが無い。	入試問題 採点基準 得点分布
入学前教育	<input type="checkbox"/> すべての入試区分で、入学予定者に対して入学前教育を実施している。 <input type="checkbox"/> すべての入試区分で、入学前教育の課題の提出を義務付けている。	入学前教育（課題、配布資料） プレースメントテスト実施記録
入学後の追跡調査	<input type="checkbox"/> 入試区分別に、休学・留年・退学の動向を把握している。 <input type="checkbox"/> 入試区分別に、学年進行に伴う GPA の推移を把握している。	休学者数・留年者数・退学者数（入試区分別、学科別、学年別） GPA の推移（入試区分別、学科別、学年別）
卒業後の追跡調査	<input type="checkbox"/> 卒業生の動向を把握している。	就職率（入試区分別、学科別、学年別） 卒業生調査（方法は、次年度検討）

* 「学力の3要素」を多面的に評価する選考方法の例示

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		主体性・多様性・協働性
	共通テスト	学力試験	調査書	小論文	プレゼンテーション	面接・
指定校推薦			○		○	○
一般推薦			○	○		○
一般入試		○	○			○
共通テスト利用	○		○			
A0 入試			○	○	○	○
社会人入試				○		○

* 採点基準の評価の例示

<ul style="list-style-type: none"> ・学力試験では、基本的な知識・技術を習得しているかどうかを問う問題を作成している。 ・プレゼンテーションでは、表現力を評価する採点基準を入れている。 ・面接では、主体的に問題解決に関わった経験を聞き出している。

5. 2019 年度年間スケジュール

- (1) 7 月 第 1 回教学マネジメント委員会の開催
 規程の見直し（所掌事項、メンバー構成（学外者・学生の参加）など）
 アセスメントポリシー（案）の策定（8 月の大学評議会で審議・決定）
- (2) 8～9 月 IR 部門で、アセスメントポリシーに基づいて前年度の各種データの収集・集計・分析
 IR 部門で、今年度実施する学生調査質問紙（案）を作成
 質問紙の主な項目：満足度、学習時間、学習到達度（自己評価、資格試験等）、学習支援、学生生活、施設設備、経済的支援など
- (3) 9 月 第 2 回教学マネジメント委員会開催
 第 3 回教学マネジメント委員会の準備
- (4) 10 月 第 3 回教学マネジメント委員会（学外者・学生を含む）
 IR 部門で作成した資料に基づいて、前年度の各種データの検証、次年度の重点取り組み課題の抽出、改善案を審議
 審議結果を全教職員に周知（全学 FD または文書で）
 IR 部門で、学生調査を実施
- (5) 10 月以降 教学マネジメント委員会の提案に基づいて、各部局で具体的改善案を立案・実行

6. 2019 年度収集するデータ（教学マネジメント委員会から各担当部へデータの提供を依頼、IR 部門で収集、整理、分析する）

収集するデータ
授業評価の集計
成績評価の集計
GPA の集計（学年別、学科別、入試区分別、DP 別）
学生調査の集計（新入生調査、学生生活実態調査、学習行動調査、満足度調査から抽出）
国家試験合格率
入試に関わるデータ（志願者数、合格者数、入学者数、得点分布）
在学生に関わるデータ（休学者数・留年者数・退学者数）
就職率

以上